

# 会社の信用について



弊社は私がパナソニックを卒業し、親しい仲間5人と一緒に起業し3年間の活動を経て10年前に法人組織にして、丁度この5月に第10期を終了したところです。順調に業績を伸ばしてきたのですが後半3年はコロナに見舞われ失速しましたが、ここまでやって来られたのは多くの皆様方のご支援の賜物だと思っております。

調べてみると国内157万社の2021年の平均年齢は34.1年(東京商工リサーチ調べ)とありますので、まだまだ3分の1に満たない若い会社です。

今回この節目に当たって「会社の信用」について考えてみるものではないかと思い、書き表してみたいと思います。これまで突っ走ってききましたので、改めてこのことについて考えたことはありませんでした。メルマガ読者の皆様でもなかなかこういう機会はないのではないかと勝手に思い、新人も入って3か月経ったこの時期、こういうテーマで対話する機会を持てたらと思っております。

「会社の信用」とは具体的にどういうことなのか、ネットを見ると、「信用」とは、「それが確かなものと信じ、受け入れること」とあり、「ある人や団体が過去に行った行為や、積み上げた業績などを考慮して、それらを信じても良いと判断することも」指しますと、又「信」は「本当だと思う」といった意味があり、「用」は「とりあげる」という意味もあります。

一般的に会社の信用とは、財務内容がよい、具体的には資産内容が健全、事業収益が上がっている、事業がバランスよく発展しているということになりますが、この財務内容に加えて日頃の活動が信用を得られるものでなければなりません。

### 具体的には

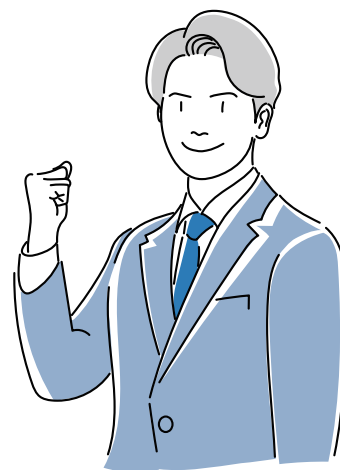
- ① 提供する商品・情報の内容・質が信用できるもの
- ② 提供する価格に信頼がおける
- ③ 納期や約束事を守る
- ④ 日頃の活動が法律や規律に従い守る

といったことがあります。このほかに社員自身の言動・行動が信用に価するものであることかと思えます。

### 具体的には

- ① 礼儀正しい
- ② 言行が一致している
- ③ 品行方正である
- ④ 約束・時間を守る
- ⑤ 規律正しい
- ⑥ 謙虚である
- ⑦ 気遣い・心遣いがみえる

等かと思えます。



会社の信用をつくりあげていくには細心の注意と永年の努力が必要ですが、一人の不注意が、日常の何気ない言動が、会社の信用低下につながる結果を招くことがあるのですから、社員一人ひとりが、常に会社の信用を考え行動することが求められると思えます。

入社3か月の新入社員、職場に仕事に慣れてきたこの時期に、こんな話をするのも良いのではないのでしょうか。私の会社もあらためてこのことを考え前に進んでいこうと思っております。

長嶺 堅二郎

